

参 考 資 料

1	若者雇用を取り巻く現状	P 1
2	高等学校におけるインターンシップ等について	P 2
3	職業学科におけるインターンシップ等について	P 3
4	職業学科 学科別設置状況	P 5
5	愛知県高等学校職業教育技術認定事業	P 9
6	第94回愛知県産業教育審議会答申の概要	P 10

若者雇用を取り巻く現状

全年齢の平均と比較して若年者(15~24歳)の失業率が高くなっている。

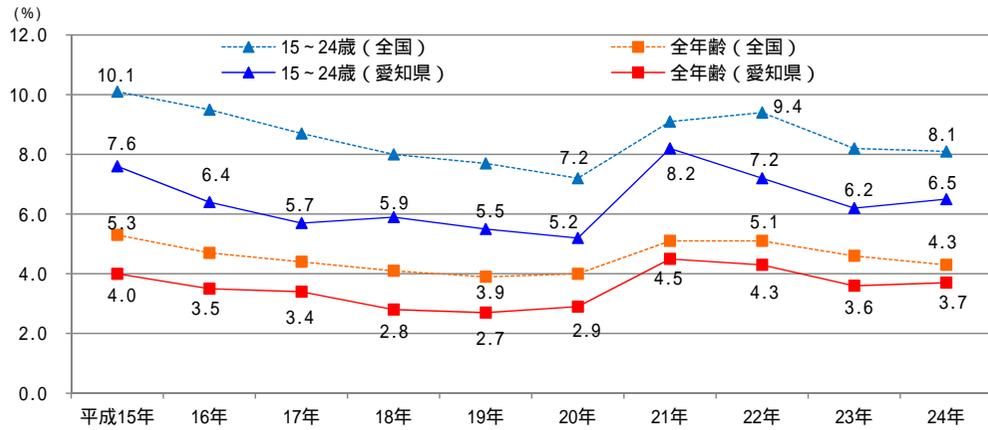
若年無業者(15~34歳)は、平成14年以降、約60万人超で推移している。

フリーター(15~34歳)は、平成15年をピークに減少傾向に転じたが、近年はほぼ横ばいで推移している。

新規学卒就職者の3年以内の離職率は、減少傾向にあったが、平成22年3月卒業者から増加に転じた。平成22年3月卒業者以降、増加していくことが懸念される。

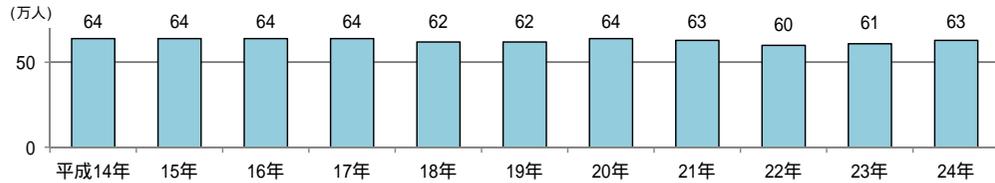
退職年齢を迎えたいわゆる「団塊の世代」に続く世代も、労働力人口に占める割合が高く、今後も熟年世代の大量退職が続くとみられる。

1 若年者の失業率の推移



資料:総務省統計局「労働力調査(基本集計)」

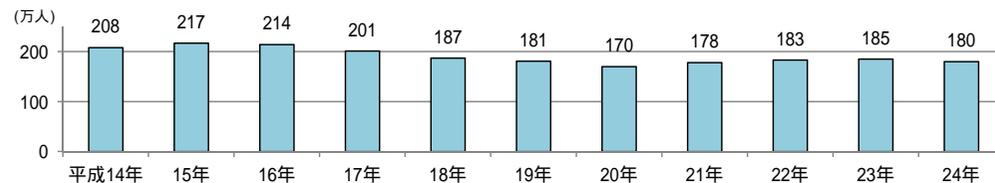
2 若年無業者の数の推移



(注)「若年無業者」の定義は、15~34歳で、非労働力人口のうち、家事も通学もしていない者とした。

資料:総務省統計局「労働力調査(詳細結果)」

3 フリーターの数の推移

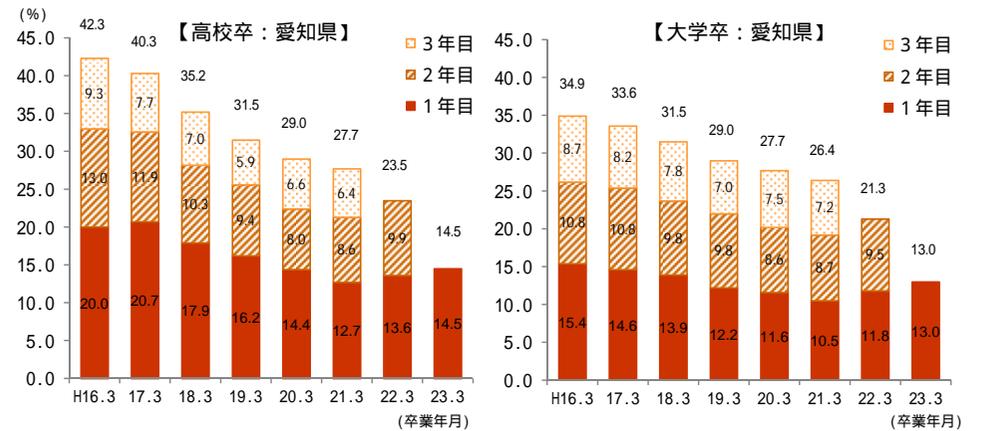


(注)「フリーター」の定義は、15~34歳で、男性は卒業生、女性は卒業生で未婚の者とし、以下の者の合計。

- 雇用者のうち勤め先における呼称が「パート」又は「アルバイト」である者、
- 完全失業者のうち探している仕事の形態が「パート・アルバイト」の者、
- 非労働力人口のうち希望する仕事の形態が「パート・アルバイト」で、家事・通学等していない者

資料:総務省統計局「労働力調査(詳細結果)」

4 新規学卒就職者の3年以内の離職率の推移

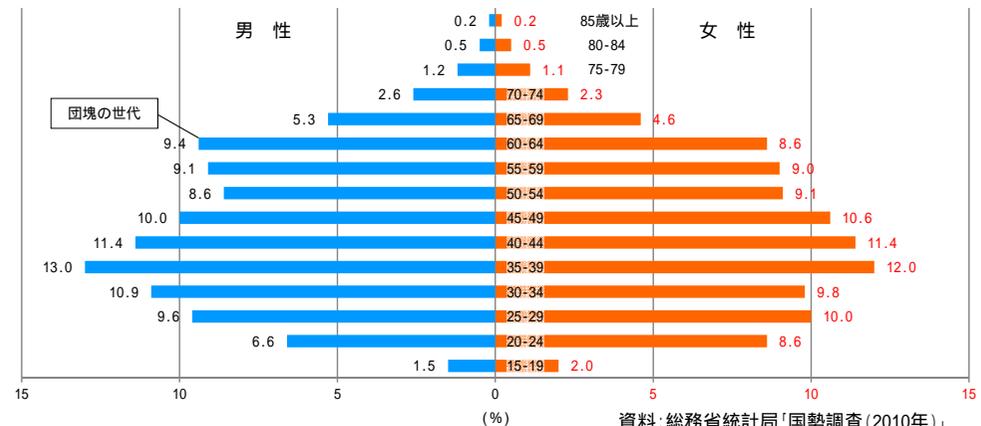


【全国】	H16.3	H17.3	H18.3	H19.3	H20.3	H21.3	H22.3	H23.3
中学卒	69.7	66.7	67.3	65.0	64.7	64.2	53.8	44.3
高校卒	49.5	47.9	44.4	40.4	37.6	35.7	31.8	20.8
大学卒	36.6	35.9	34.2	31.1	30.0	28.8	23.3	14.3

資料:【全 国】厚生労働省「新規学校卒業就職者の就職離職状況調査」

【愛知県】厚生労働省愛知労働局「新規学校卒業者の離職状況」

5 年齢階級別・男女別労働力人口の割合



資料:総務省統計局「国勢調査(2010年)」

県立高等学校におけるインターンシップ等について

進路情報の収集に積極的に参加し、職業観・勤労観を確立することと、自分なりの将来設計を立て、社会に出るための準備を行うことを目標。
より多くの学校が、インターンシップ等のキャリア教育推進事業に取り組むことができるよう努めている。

1 全日制県立高等学校のインターンシップ等の実施状況（H24）

全ての全日制県立高等学校 146 校でインターンシップ等を実施

平成 25 年 3 月卒業の生徒が在学中に 1 度でもインターンシップ等に取り組んだ生徒の数

年度	H20	H21	H22	H23	H24
実施校 [校]	85	85	143	146	146
卒業生数 [人]	35,713	35,864	36,401	37,003	38,645
在学中に 1 度でも参加した生徒数 [人]	4,368	4,630	5,417	6,197	7,792
在学中に 1 度でも参加した生徒数の割合 [%]	12.2	12.9	14.9	16.7	20.2

平成 24 年度インターンシップ等の活動日数の割合

日数	1 日	2 ~ 3 日	4 ~ 5 日	6 ~ 10 日	11 ~ 29 日	30 日以上	合計
人数 [人]	3,488	4,499	1,068	208	689	30	9,982
割合 [%]	34.9	45.1	10.7	2.1	6.9	0.3	

平成 24 年度インターンシップ等の実施形態

主な実施形態	実施人数 [人]	割合 [%]	普通科（単独校）のみの実施人数 [人]	普通科（単独校）のみの割合 [%]
大学・専門学校における研究体験等	659	6.6	456	12.9
各種研究機関における研究体験等	78	0.8	38	1.1
保育体験	1,035	10.4	870	24.7
福祉・介護体験	626	6.3	336	9.5
看護体験	677	6.8	581	16.5
ジョブシャドウイング	353	3.5	336	9.5
事業所等	6,554	65.7	905	25.7
合計	9,982		3,522	

2 課題

全ての全日制県立高校 146 校でインターンシップ等に取り組んでいるが、平成 25 年 3 月卒業の生徒が在学中に 1 度でもインターンシップ等に参加した生徒の割合 20.2%。（普通科：12.5% 職業学科：43.3%）

実施形態の偏り

- ・ 1 日のみの体験的活動 34.9% [普通科単独校のみの場合 74.3%]
- ・ 普通科単独校の 1 日のみの体験的活動のうち、保育体験・看護、介護体験の実施率 68.34%

3 課題への対応

さまざまな業種の受入れ先の確保

「あいち夢はぐくみサポーター」制度の創設（H23.7）

・ インターンシップ等の受入れ企業への登録依頼

【登録サポーター数 403 団体】（H25.8.15 現在）

業種	業種別登録数	事業所等見学	職業インタビュー	職業体験	ものづくり体験	インターンシップ	ジョブシャドウイング	社会人講師
農業	5	2	2	5	1	2	0	2
林業	1	1	1	1	0	1	0	0
建設業	12	5	5	6	2	6	3	4
製造業	43	19	19	32	7	22	5	9
電気業等	2	2	2	1	0	2	0	1
情報通信業	4	1	1	2	0	1	0	4
運輸業	1	1	0	1	0	0	0	0
卸売・小売業	44	22	14	41	2	14	1	4
金融・保険業	5	3	2	4	1	3	1	3
不動産業	1	1	1	1	0	1	1	0
飲食店	30	12	9	28	5	12	3	3
医療、福祉	105	80	63	99	6	56	22	28
教育、学習支援	46	16	13	34	3	16	3	10
複合サービス	8	9	6	11	0	6	3	3
サービス	72	48	43	68	6	36	19	19
公務	24	16	12	21	2	9	4	3
全体	403	238	193	355	35	187	65	93

実施形態の拡充

・ ジョブシャドウイング（1～2日）の積極的な実施（主に普通科）

生徒が実際の事業所に訪れ、そこで働く従業員に『影』のように密着し、その仕事内容や職場の様子を観察し、仕事や職種に関する認識の幅を広げる機会と、働くことについての気づきを促すことに重点を置く。

仕事体験が難しい職業でも、観察が中心のジョブシャドウイングなら可能。高度な資格が必要な仕事やデスクワーク等も可能。

ジョブシャドウイングは「働く人」を知るのに効果的。客観的に仕事や職場を観察し、仕事への姿勢ややりがいにふれることが可能。

[例] 県立刈谷高等学校

第1学年の生徒全員に、地元企業において会社経営について学んだ後、製品管理部門や事務部門において、ジョブシャドウイングを実施。

その企業に就職している本校OBによる講話の実施。

職業学科におけるインターンシップ等について

本県は、製造業を中心にさまざまな産業が集積した全国有数の産業立県。本県の専門高校は人材育成の面からこれらを支える重要な役割を果たす。その役割を果たすため、専門学科では地域社会・産業界等との協力・連携を積極的に行い、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を習得。

1 農業科

・平成24年度インターンシップ等実施状況（県立高校）

学年	1	2	3
農業科生徒数〔人〕	1,267	1,223	1,201
平成24年度の実施者数〔人〕	0	459	118
3年間で一度でも経験した生徒の数〔人〕			619(51.5%)

〔例〕 県立稲沢高校 2年生全員 3日間

- ・地域の農家、農協や農業関連事業所の他、販売店、保育園、建設業者等、各科の学習内容を踏まえた65事業所等で実施。
- ・総合的な学習の時間に位置付けられ、事前指導から業者との打合せ、事後指導まで年間を通して取り組まれ、日頃の学習内容と実際の職業とを具体的につなげ、勤労観・職業観を育成。

2 工業科

・平成24年度インターンシップ等実施状況（県立高校）

学年	1	2	3
工業科生徒数〔人〕	3,816	3,560	3,607
平成24年度の実施者数〔人〕	252	1,030	28
3年間で一度でも経験した生徒の数〔人〕			1,006(27.9%)

「地域ものづくりスキルアップ講座」(H22～ 2・3年生で実施)

工業高校の教育課程に、地域の企業との連携プログラムを組み込むことにより、県内の工業高校16校と工業系列をもつ総合学科高校1校が、産業界のニーズを踏まえた実践的な技能習得の仕組みを確立し、今後の地域産業界を担う人材を育成。

大手企業の研修施設で、2週間程度、専門的な分野に関して比較的高度な内容を学習し、比較的難易度の高い資格の取得を目指す。

(各講座定員10名：平成25年度12校49名)

地域の産業界(中小企業等)のニーズを踏まえた、より実践的な技術・技能を習得するため、10日間程度の現場実習を行い、今後の地域産業界を担う意欲をもった生徒を育成する。

(平成25年度52社137名)

県産業労働部との連携

モノづくり人材育成事業

- ・県立の高等技術専門校の施設を活用し、工業高校生及び工業科教員を対象に、本県モノづくり産業の将来を担う人材の育成を図る「モノづくり人材育成事業」を実施。
- ・工業高校生には、2週間、企業のニーズに対応した実践的な技能実習(技能検定普通旋盤2級及び3級)を行い、本県ものづくり産業の将来を担う人材を育成。
- ・工業科教員には、将来の本県産業を担う技能者の更なるレベル向上を図るためにフライス盤・電子機器組立てなどの熟練技能士から直接、技能を学ぶ。

(工業高校生)

開催年度	実施会場	参加高校数〔校〕	等級	参加人数〔人〕	合格者〔人〕	合格率〔%〕
22	高等技術専門校 (名古屋・岡崎)	6	2級	12	10	83.3%
			3級	29	14	50.0%
			合計	41	24	60.0%
23	高等技術専門校 (名古屋・岡崎)	4	2級	12	10	83.3%
			3級	21	17	81.0%
			合計	33	27	81.8%
24	高等技術専門校 (名古屋・岡崎)	6	2級	14	13	92.9%
			3級	13	10	76.9%
			合計	27	23	85.2%
25	高等技術専門校 (名古屋・岡崎)	4	2級のみ	14 (見込み)		

「あいち技能マイスター派遣事業」

- ・子どもや若者のあこがれや目標となるような優れた技能者を「あいち技能マイスター」として知事が認定(現在17名)し、その認定者が工業高校生を対象に講話や技能指導を実施。

平成25年度県立高等学校「あいち技能マイスター」派遣計画

	派遣するマイスター			派遣日時	派遣先
	氏名	職種	所属		
1	加藤 洋一	機械組立仕上げ	ヤマザキマザック(株)	5月14日(火)	岡崎工業
2	近藤 博樹	建築大工	コンドウ建築	5月14日(火)	豊橋工業
3	田上 俊一	精密機器組立	(株)デンソー技研センター	6月11日(火)	鶴城丘高校
4	近藤 博樹	建築大工	コンドウ建築	7月10日(水)	碧南工業
5	前川 賢吾	常滑焼	前川製陶所	7月29日(月)	常滑高校
6	小野内 進二	電子機器組立て	アイシン精機(株)	8月2日(金)	一宮工業
7	田上 俊一	精密機器組立	(株)デンソー技研センター	3月4日(火)	起工業

3 商業科

・平成24年度インターンシップ等実施状況（県立高校）

学年	1	2	3
商業科生徒数 [人]	3,241	3,047	3,066
平成24年度の実施者数 [人]	323	1,250	146
3年間で一度でも経験した生徒の数 [人]			1,406 (45.9%)

[例] デュアルシステムの取組（県立中川商業高校2・3年生）

- ・学校での授業と専門学校、企業での実習を組み合わせることにより、社会で通用する実践的な知識や技能の習得。
- ・第2学年では多くの分野を体験し、視野を広げる。第3学年では進路希望に合わせた分野で継続的で専門的な実習を実施。

第2学年 ねらい「自己を知る」(H24実績：生徒数22名)	
・校内での授業 ・キャリアデザイン講座 ・社会人講座 ・中間発表会	・専門学校実習（延べ6日6校64名） （複数職種の体験） ・企業実習（延べ96日39社56名） （複数職種の体験）
第3学年 ねらい「自己を高める」	
・校内での授業 ・キャリア開発講座 ・アンケート・分析 ・発表会	・専門学校実習（延べ41日14校42名） （スキルアップのための実習） ・企業実習（延べ5日2社7名） （専門分野）

4 水産科

・平成24年度インターンシップ等実施状況（県立高校）

学年	1	2	3
水産科生徒数 [人]	161	142	142
平成24年度の実施者数 [人]	4	61	2
3年間で一度でも経験した生徒の数 [人]			62 (43.7%)

[例] 県立三谷水産高等学校

- ・地域における高度な漁労・加工技術等の継承や漁業・水産業分野の専門的な知識を有する人材を育成。
- ・2・3年生の夏季休業中に希望者を対象に水産関連事業所において、3～5日程度実施。

5 家庭科

・平成24年度インターンシップ等実施状況（県立高校）

学年	1	2	3
家庭科生徒数 [人]	915	908	884
平成24年度の実施者数 [人]	245	496	97
3年間で一度でも経験した生徒の数 [人]			632 (71.5%)

[例] 県立豊丘高等学校

- ・科目「生活産業基礎」の授業時に、産業や職業に関心を高め、勤労観、職業観を育てることを目的。
- ・第1学年生活文化科の生徒全員（80人）が、幼児教育分野で近隣の幼稚園3園に20人ずつ2日間実施。サービス・販売分野で6社に20人ずつ2日間実施。
- ・科目「課題研究」の授業時に、3学年で乳児院に6名・特別支援学校に6名・福祉型児童発達支援センターに2名が2時間連続授業で15日間実施。

6 看護科

・平成24年度インターンシップ等実施状況（県立高校）

学年	1	2	3
看護科生徒数 [人]	81	81	78
平成24年度の実施者数 [人]	40	81	78
3年間で一度でも経験した生徒の数 [人]			78 (100%)

[例] 県立桃陵高等学校

- ・臨床看護を行うために必要な能力と態度の育成を目的。
- ・第1学年は生徒全員（40人）が、科目「看護臨地実習」として、1日の病院見学と4日間の病院実習を実施。
- ・第2学年は生徒全員（40人）が、科目「看護臨床実習」として、18日間の病院実習を実施。
- ・第3学年は生徒全員（40人）が、科目「成人看護臨床実習」14日間、「老人看護臨床実習」10日間の病院実習を実施。

7 福祉科

・平成24年度インターンシップ等実施状況（県立高校）

学年	1	2	3
福祉科生徒数 [人]	154	137	148
平成24年度の実施者数 [人]	153	137	145
3年間で一度でも経験した生徒の数 [人]			146 (98.6%)

[例] 県立海翔高等学校

- ・介護施設利用者の生活や居宅サービスの内容を体験的に学ぶ。
- ・第2学年で夏季休業中に1日、利用者の居宅に出向いて行う訪問介護サービスを見学・体験。

県立農業・水産高等学校（農業科をもつ高等学校8校1校舎・水産科をもつ高等学校1校）の設置状況

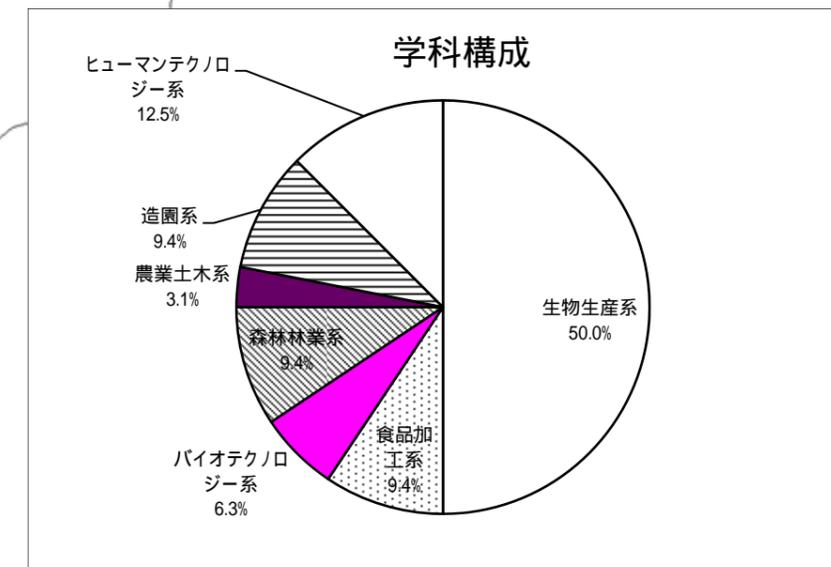
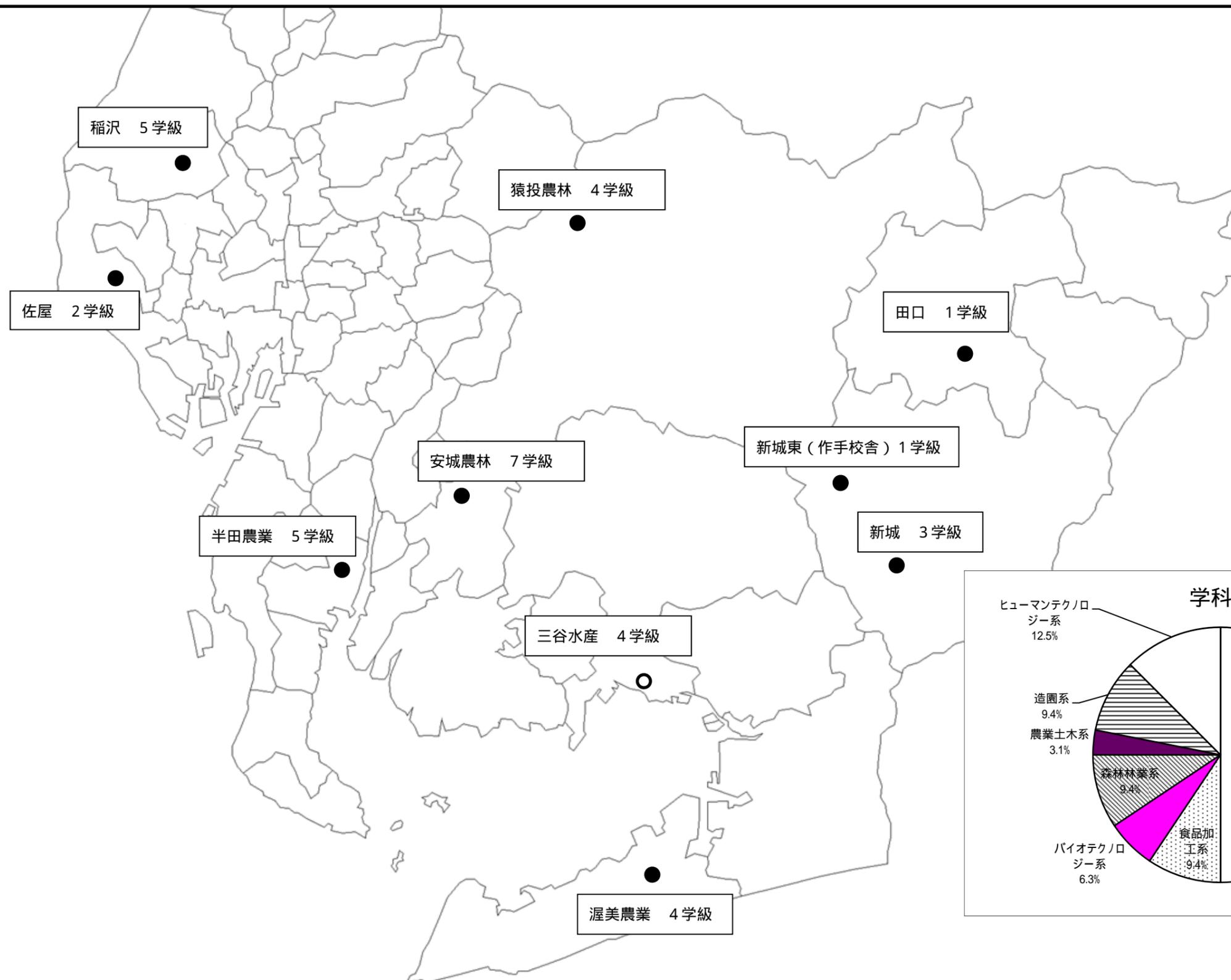
農業・水産高校の設置状況

農業に関する学科を設置している県立高校は、農業科単独校5校、その他の学科との併置校3校と1校舎の合計9校。（全日制県立高校146校）

学科の内訳は、生物生産系学科が50.0%、食品加工系学科が9.4%、バイオテクノロジー系学科が6.3%、森林林業科が9.4%、農業土木系3.1%、造園系9.4%とヒューマンテクノロジー系12.5%。卒業生は、農業で学んだ専門的な知識や技術を生かして、さまざまな分野で活躍。

水産に関する学科を設置している県立高校は、水産科単独校1校。

学科の内訳は、海洋科学科、情報通信科、海洋資源科、水産食品科の4科。

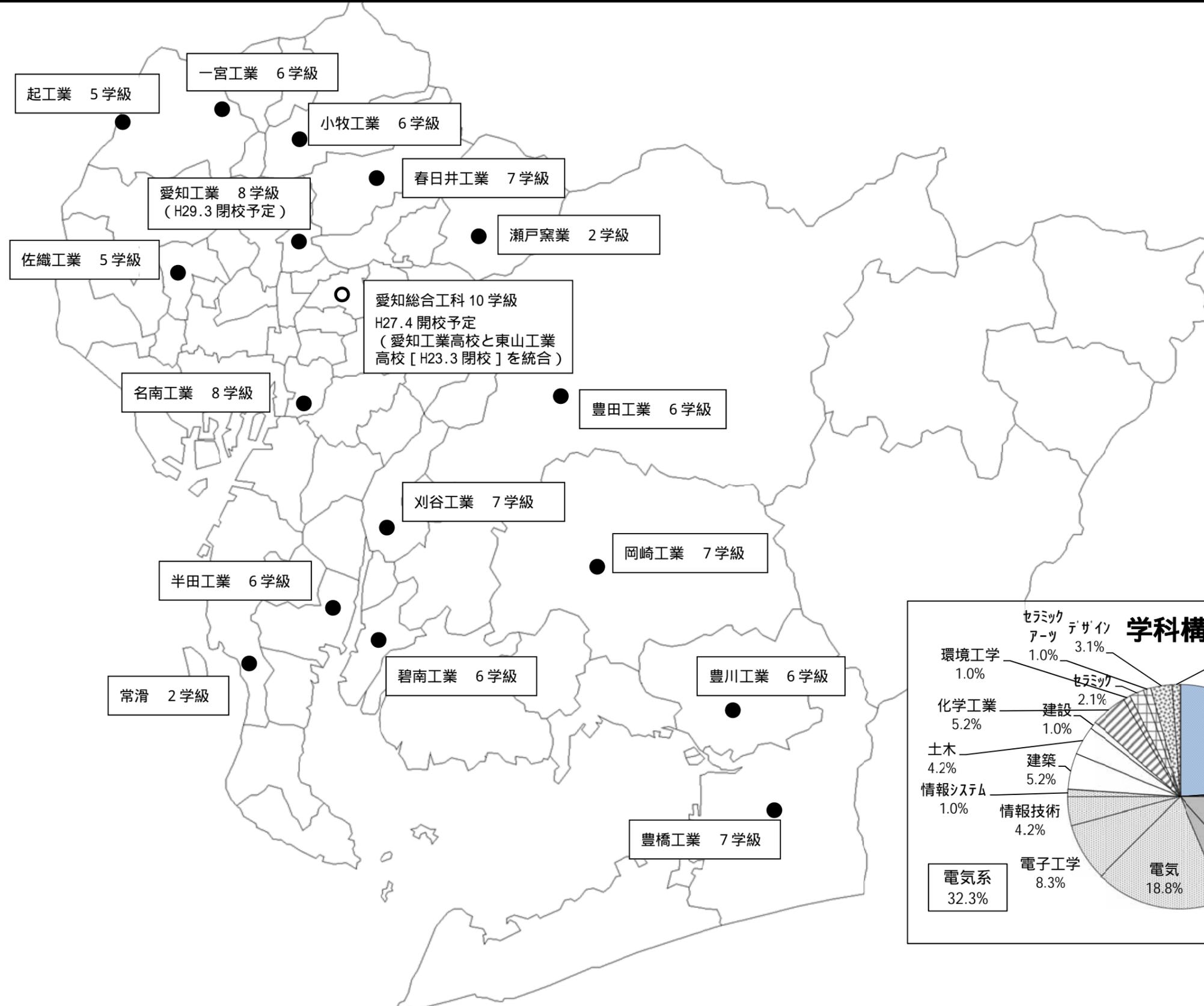


県立工業高等学校（工業科をもつ高等学校 16校）の設置状況

工業高校の設置状況

工業に関する学科を設置している県立高校は、工業科単独校14校、その他の学科との併置校2校の合計16校。（全日制県立高校146校）

学科の内訳は、機械系学科が43.7%、電気系学科が32.3%、建設系学科が10.4%、化学系学科が6.2%、セラミック系3.1%、デザイン系4.1%となっており、機械・電気系学科で76%を占め、製造業を中心とする本県産業を担う人材を多く輩出。

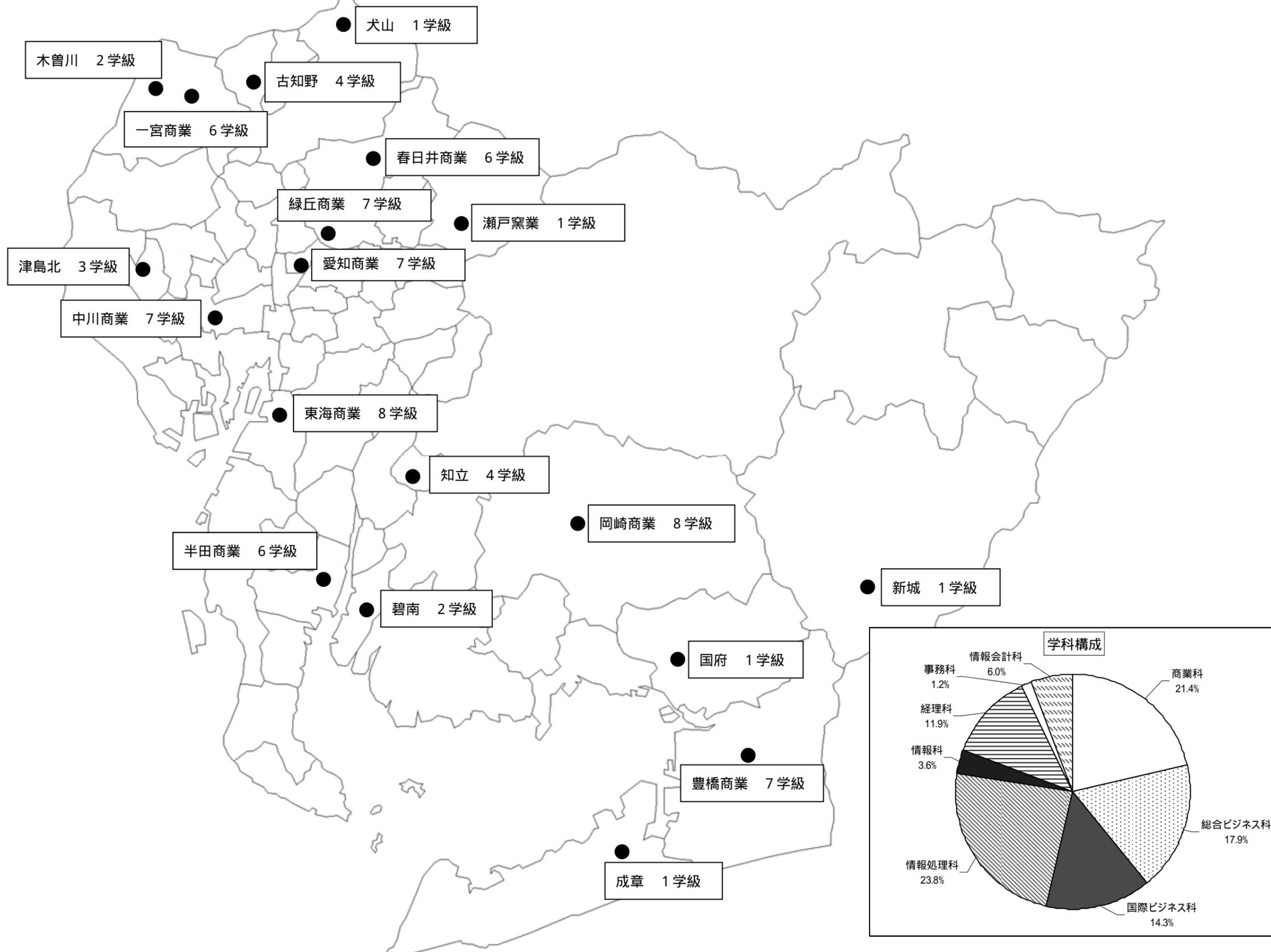


県立商業高等学校（商業科をもつ高等学校 19校）の設置状況

商業高校の設置状況

商業に関する学科を設置している県立高校は、商業科単独校9校、普通科及びその他の学科との併置校10校の合計19校。（全日制県立高校146校）

学科の内訳は、商業科が21.4%、総合ビジネス科が17.9%、国際ビジネス科が14.3%、情報処理科が23.8%、情報科3.6%、経理科11.9%、事務科1.2%、情報会計科6.0%。卒業生は、商業で学んだ専門的な知識や技術を生かして、さまざまな分野で活躍。

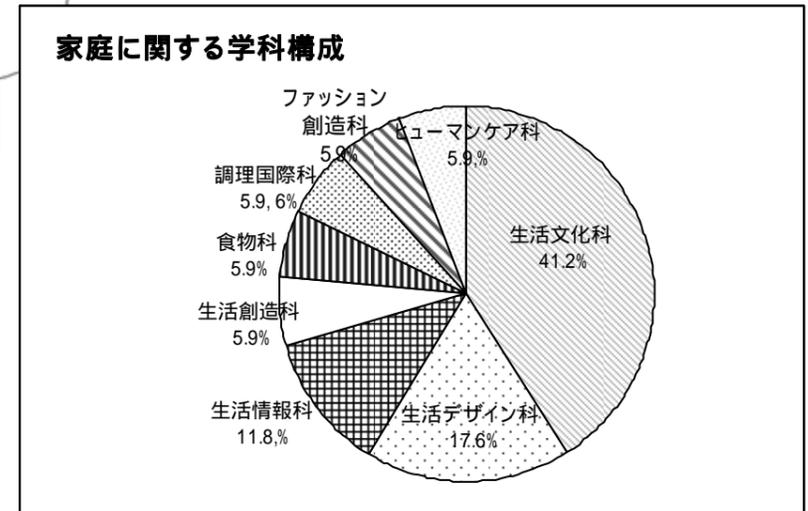
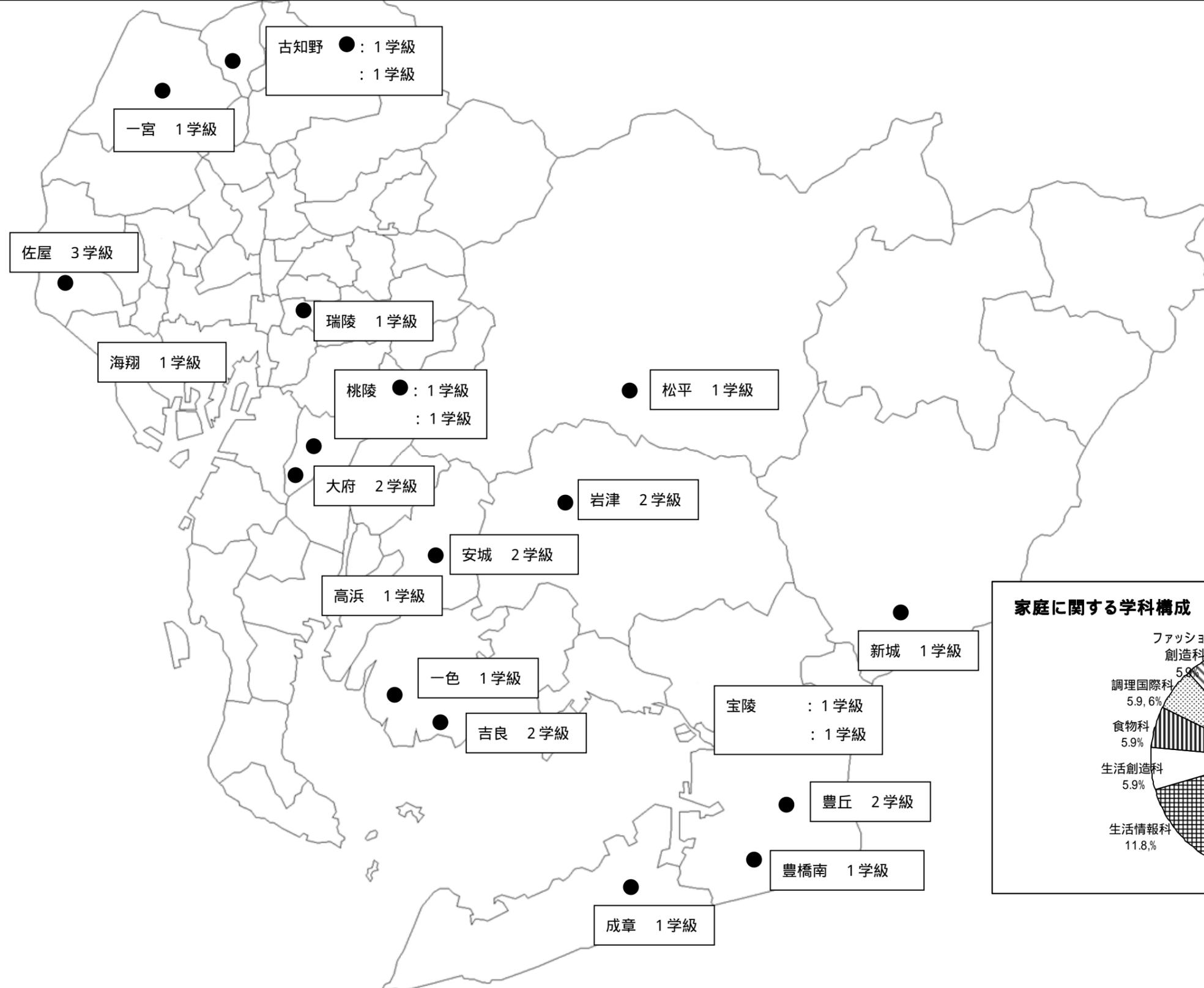


県立家庭・看護・福祉高等学校の設置状況

(家庭科をもつ高等学校 15校・福祉科をもつ高等学校 4校・看護科をもつ高等学校 2校)

(家庭・看護・福祉) 高校の設置状況

家庭・看護・福祉に関する学科を設置している県立高校は、家庭に関する学科は15校()、福祉科は4校()、衛生看護科は2校()。(全日制県立高校146校)
 家庭に関する学科の内訳は、生活文化科が7校41.2%、生活デザイン科が3校17.6%、生活情報科が2校5.9%、生活創造科は1校5.9%、食物科は1校5.9%、調理国際科1校5.9%、ファッション創造科は1校5.9%、ヒューマンケア科は1校5.9%。(併設：佐屋・岩津高校)



1 目的

- (1) 職業資格の取得を通じて、専門分野の基礎的・基本的な技術・技能を習熟させる。
- (2) 学習意欲を高め、目的意識をもって充実した学校生活を送らせる。
- (3) 将来にわたって豊かな職業生活を営むことのできる資質を身に付けさせる。

2 内容

(1) 顕彰制度（昭和57年度開始）

在学中に国や公的機関等が実施する319種目（平成25年度）の職業資格試験や検定試験等のうちから、一定条件以上の資格等を取得した場合に知事が顕彰する。

グランプリの授与（平成21年度新設）

愛知県高等学校職業教育技術顕彰制度により表彰された生徒のうち、人物的にも優れ、他の模範となる生徒を県教育委員会が表彰する。

(2) 技術検定制度

高校生の学力水準に見合う検定基準を県独自で定め、この基準に沿って実施する検定試験に合格した者に対して知事が技術検定合格証書を授与する。

顕彰・検定取得者実績数

	平20	平21	平22	平23	平24
顕彰取得者（人）	7,914	8,317	8,296	8,165	8,807
検定取得者（人）	3,736	4,125	4,025	4,116	3,909

(1) 顕彰制度

専門分野に係る公的資格等を、難易度に合わせて3つに区分（ポイント制）し、ポイントの合計が3ポイント以上となった生徒を対象に顕彰

基準	取得ポイント数
長期間の学習を重ねることで合格できる高度な資格等を1種目取得した場合 （測量士、基本情報技術者試験、簿記検定1級等）	3ポイント
比較的高度な資格等を取得した場合	2ポイント
努力すれば比較的容易に合格できる資格等を取得した場合	1ポイント

(2) 技術検定制度

学科名等	検定試験の名称
農業に関する学科	農業技術検定
工業に関する学科	電気基礎認定試験、旋盤技能検定、その他8種目
商業に関する学科	商業計算検定、英文ワープロ検定
水産に関する学科	水産食品化学分析検定、その他6種目
特別支援学校	コンピュータ技術検定、ワープロ技術検定

取得可能な高度な資格等の例

学科名等	取得可能な高度な資格等の例
農業に関する学科	農業プロジェクト発表会（全国大会 最優秀賞） 造園技能士2級 測量士補 など
工業に関する学科	技能検定（普通旋盤作業）2級 第三種電気主任技術者 工事担任者DD第1種 危険物取扱者甲種 など
商業に関する学科	簿記検定1級 ソフトウエア開発技術者 販売士検定1級 秘書技能検定1級 など
家庭・看護・福祉に関する学科	家庭科被服製作技術検定（洋服・和服）1級 家庭科食物調理技術検定1級 など
水産に関する学科	海技士（航海・機関）5級 小型船舶操縦士1級 陸上無線技術士2級 総合無線通信士2級 など
特別支援学校	障害者技能競技大会（洋裁・ワードプロセッサ・フラワーアレンジメントなど）金賞 盲人珠算検定A級 など

**第94回愛知県産業教育審議会
高等学校における産業教育等を通じた本県産業を担う人材の育成方策
答申の概要**

キャリア教育・職業教育を通じた本県産業を担う人材の育成方策

キャリア教育の推進に向けて

1 キャリア教育の必要性

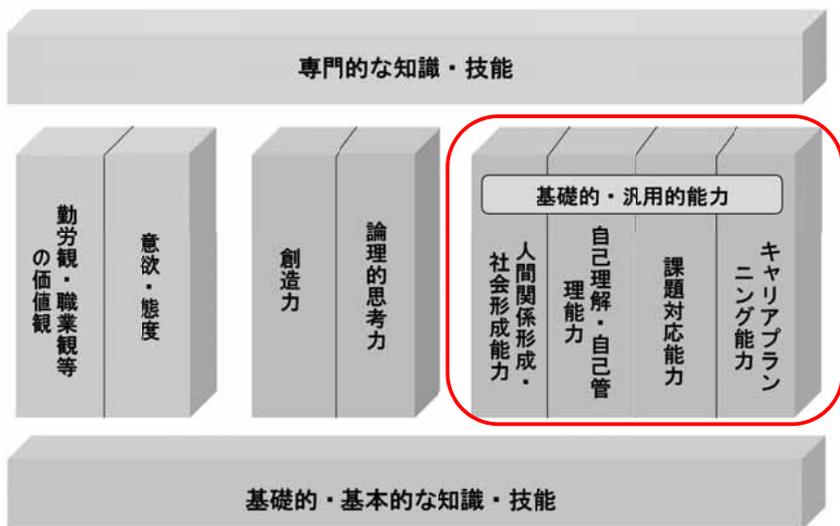
新学習指導要領

「生徒が自己の在り方生き方を考え、主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、計画的、組織的な進路指導を行い、キャリア教育を推進すること」が示され、キャリア教育の推進が強く求められている。

2 基礎的・汎用的能力の育成

〔今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）
平成23年1月31日 中央教育審議会 より〕

「社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力」の要素



キャリア教育で育成すべき力である「基礎的・汎用的能力」(人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力)の育成に向け、「学科ごとの考え方」を本答申で示している。

この4つの能力は、それぞれが独立したものではなく、相互に関連したものであり、特に順序性があるものではない。各校ではそれぞれの課題を踏まえて、目指す生徒像の具体的な能力を設定し、工夫された教育を通して、目標の達成を図る。

本県産業を担う人材の育成方策

1 キャリア教育の充実

- (1) 道徳性・社会性の向上
道徳教育の充実や交流活動の推進(愛知の教育に関するアクションプラン)
- (2) 各学科の特色を生かした基礎的・汎用的能力の育成
本答申で示した各学科の「基礎的・汎用的能力」の育成に向けた方策の実施
- (3) 体験的な活動の充実
卒業生・地域の職業人等とのインタビューや対話、インターンシップ、ジョブシャドウイング等の充実
普通科においても、将来の職業生活の基礎となる能力や態度を育成するための学校設定教科・科目等の設置を推進
- (4) キャリア教育ノートの活用
ワークシートをファイルしていくポートフォリオ形式の「キャリア教育ノート」の積極的な活用
- (5) キャリア教育全体計画・年間指導計画の作成
各高等学校にキャリア教育推進委員会等を設置

2 外部の資源や人材との連携によるキャリア教育・職業教育の充実

- (1) あいち夢はぐくみサポーター制度の活用
地域や企業・団体等が学校を支援する仕組みの構築
- (2) 上級学校との連携
「あいちの大学『学び』フォーラム」(あいちの学校連携ネット)

3 地域産業を担う人材の育成を目指した職業教育の充実

- (1) 将来のスペシャリストとして活躍できる人材の育成
本答申で示した各学科の5か年計画の実施
- (2) 産業現場等における長期実習の実施
専門学科における10日間から3週間程度の長期間の現場実習
- (3) 施設・設備等の改善・充実
専門学科を拠点としたネットワーク化(普通科、総合学科の生徒も利用)
- (4) 高等学校専攻科の充実
5年一貫教育を踏まえた教育課程の充実
長期間の現場実習(3か月程度)
[専攻科設置校]
愛知総合工科高等学校(平成27年4月開校予定)、瀬戸窯業高等学校セラミック陶芸科、三谷水産高等学校海洋技術科、桃陵・宝陵高等学校衛生看護科
- (5) 教員の資質の向上
教員の地元企業での研修

4 専門学科等で学ぶ誇りの醸成と理解の促進

・「第23回全国産業教育フェア愛知大会」(平成25年11月9日・10日)
次代の産業を担う人材の育成と産業教育の一層の充実・発展を目指し、全国有数の産業立県である本県から、新しい時代に即した産業教育の在り方を発信する。

[基本方針]

- ・産業の魅力にふれた感動を将来につなげる産業教育フェア
- ・ものづくりの伝統を一層の発展につなげる産業教育フェア
- ・学校・地域・産業界をつなげる産業教育フェア
- ・地域イベント等への積極的な参加